新入留学生に対する生活オリエンテーション実施方法と内容の改善
Improvements in the Campus Life Orientation for New International Students

岡　　益　巳

Abstract

When I was assigned to the Advising and Counseling Section of the International Student Center in November 1999, I found out that a campus life orientation for new international students had only ever been given to intensive Japanese language trainees who were under the care of the Center, and not to other students who were enrolled with other faculties and graduate schools at Okayama University

I succeeded in setting up a campus life orientation for all new international students studying at our university in 2001. However, it turned out that very few of the privately financed students participated in the orientation, despite the fact that they accounted for three quarters of the total international student population. The low ratio of participation and the students' ignorance of rules concerning employment in part-time jobs resulted in numerous problems with the immigration bureau and the police. I persuaded the International Student Office not to permit a student to take up a part-time job unless he/she had attended an orientation session. Finally, the office agreed with my opinion and put a new policy into practice in October 2006. As a result, the number of incidents involving trouble with the immigration bureau has remarkably decreased since then.

Since 2001, I have been constantly adding and revising the items that are included in the orientation sessions in order to meet the demands and requirements of new students. In this report, I will introduce a short history of how campus life orientation has been improved at Okayama University.

1．序

筆者は1999年11月1日付けで岡山大学留学生センター相談指導担当教員として着任した[1]。着任に先立って行われた前任者からの引き継ぎによると、当時、全学の新入留学生を対象とした「生活オリエンテーション」（以下、「オリエンテーション」と略称する。）は実施されておらず、４月と10月に留学生センターに所属する日本語研修生を対象としたものが実施されていたに過ぎない。このほか、4月初旬には留学生課の主催により、学部新入留学生を対象とした簡単なオリエンテーションが実施されており、留学生センターの相談指導担当教員にも出席が求められた[2]。

また、岡山大学では「岡山大学短期留学特別プログラムEPOK」制度にに基づく交換留

学生の受入れが2000年度に本格化したが[3]、当該プログラムによる交換留学生の生活オリエンテーションは同プログラム担当助教授が実施することとなった。

日本語研修生、学部正規生、EPOK学生を除いた大学院生、研究生、特別聴講学生（日研生、学部間交流協定による交換留学生）などの新入留学生に対するオリエンテーションは、それらの留学生の所属する部局に委ねられていた。

2000年度は前任者のやり方を踏襲して日本語研修生を対象としたオリエンテーションを実施した。これに加えて、後期には日韓共同理工系学部留学生事業の第１期生として来日した３名に対するオリエンテーションも実施した。同事業による留学生は、日本語研修生同様に半年間留学生センターに所属し、学部入学前予備教育を受けるからである。

しかし、新入留学生の大多数は、院生・研究生として入学する私費留学生である。これらの留学生に対するオリエンテーションが各部局できちんと実施されていない現実を目の当たりにし、留学生センターで対応する必要性を痛感するに至った。このため、2001年度後期からEPOK学生を除く全ての新入留学生を対象としたオリエンテーションを実施することにしたが、私費留学生である院生・研究生の出席率が極めて悪い状態が長らく続き、私費留学生の大部分を占める中国人留学生の出席率を高めることに頭を悩ませた。

また、オリエンテーションの説明項目の中には、日本国内のいずれの大学に入学しても知っておくべき共通の項目が多いが、岡山大学の留学生として知っておくべき個別的な項目もある。こうした観点をも踏まえ、留学生センターの相談指導担当者が主催するオリエンテーションにおいて、1999年後期以降、実施方法、実施内容に関してどのような改善が加えられてきたかを検証したい。

２．オリエンテーション実施方法と実施結果の概要

2.1　全ての新入留学生を対象とするオリエンテーションの立ち上げ

序で簡単に触れたように、筆者が留学生センターへ着任した当時は、全学の新入留学生に対するオリエンテーションは実施されていなかった。かつ、院生、研究生、特別聴講生として留学生が在籍する11の学部と６つの大学院において、新入留学生に対する適切なオリエンテーションが実施されていない事実が明らかになった。このため、2001年度後期に全ての新入留学生を対象とするオリエンテーションを立ち上げ、次の要領で実施した。下の３）と４）が新たに立ち上げたオリエンテーションである。下の１）は日研生の指導教員の要請で実施したが、次年度以降は院生・研究生対象のオリエンテーションへの参加を求めた。このほか、新入EPOK学生12人に対するオリエンテーションはEPOKプログラム担当教員が別途実施した。

１）日研生対象：10月10日 13:30、セミナー室１、日本語使用、２人参加

２）日本語研修生対象：10月11日 8:30、セミナー室１、英語使用、19人参加

３）院生・研究生対象：10月15日 16:30、セミナー室１、日本語使用、３人参加

４）院生・研究生対象：10月15日 17:30、セミナー室１、英語使用、８人参加

５）日韓予備教育学生対象：10月26日 10:00、研究室、日本語使用、５人参加

この結果、院生・研究生の参加者が非常に少ないことがオリエンテーション実施上の最大の問題点であることが判明した。院生・研究生の参加者数は、2002年度前期17人、同後期11人、2003年度前期５人、同後期10人、2004年度前期９人、同後期５人、2005年度前期３人と低迷が続いた[4]。この期間内の院生・研究生の入学者数は各期概ね50人～80人程度と推測されるため、参加率はせいぜい２割台、時として１割以下であった。国費留学生である日研生、日本語研修生、日韓予備教育学生の参加率は100％であった。

また、筆者が着任した当初は留学生課の主催で実施されていた学部１年生のオリエンテーションは、課員削減の影響もあり、2001年度限りで行われなくなり、2002年度以降は院生・研究生対象のオリエンテーションに含めて筆者が実施することになった。2002年度の場合、日韓共同理工系学部生を除く16人の学部１年生のうち参加者は７人であり、中国人私費留学生の欠席が目についた。

院生・研究生対象のオリエンテーション参加率が非常に悪い原因は、①オリエンテーション開催通知が新入生一人一人にきちんと伝わっていない、②開催通知を受け取っても参加しなければならないという義務感が新入生に欠けている点に求められる（岡，2006：6)。

開催通知に関しては、留学生課を通じて各部局の留学生担当事務職員宛に、掲示するだけでなく、できるだけ新入生一人一人に手渡していただきたい、と依頼したが効果はなかった。

オリエンテーション終了後、所属部局の留学生担当事務係経由で資料一式を欠席者に届ける方法を採ったが、後に入管や警察関連の問題を起こした複数の留学生に確認した限りでは、資料が読まれ、理解された形跡はなく、単に資料を送り届ける方法では何ら効果がないことも明らかになった。

2.2　外的要因によるオリエンテーションの重要性の見直し

2005年度前期に大学院自然科学研究科所属留学生の警察がらみの事件が発覚し、留学生の生活面に危機感を抱いた同研究科から筆者に対して臨時オリエンテーション実施の依頼があった。同年７月下旬に同研究科に所属する院生・研究生及び同研究科の母胎となる理系４学部の学部生を対象としたオリエンテーションを開催し、130人の留学生が参加した。この事件を契機として同研究科の教員及び事務職員がオリエンテーションの重要性を認識してくれたことから、同年度後期以降の当該部局への入学者に対してオリエンテーション参加を強く勧めてもらえるようになった。

このため、2005年度後期の院生・研究生のオリエンテーション参加者は35人に増加し、それまでの１桁或いは多くても10人台という最悪の状況を脱した。2006年度前期には37人の院生・研究生が参加したが、これに加えて、医歯薬学総合研究科の要請を受けて鹿田キャ

ンパス（医学部・歯学部キャンパス）においてもオリエンテーションを実施し、高年次生を含む20人が参加した。

2006年度前期には、相次いで警察関連及び入管関連の事件が発生し、新入留学生に対するオリエンテーションの重要度が更に高まった。オリエンテーションに参加しておらず、資格外活動違反で広島入国管理局岡山出張所に検挙された複数の留学生が「岡山大学では資格外活動に関する指導が行われていない。アルバイトをするのに許可が必要であることは知らなかった。」と述べたため、入管当局から大学宛てに厳重な抗議があった。さらなる資格外活動違反者を出さないため、筆者は学生支援課留学生支援担当主査と協議のうえ、2006年度後期以降、オリエンテーション欠席者には大学として資格外活動許可申請を認めない方針の採用に踏み切った。他方、入管に対しては留学生支援担当主査経由でオリエンテーション資料一式を送付し、岡山大学としての対応状況を明らかにした。すなわち、オリエンテーション資料には、アルバイトをするためには法務大臣の許可が必要であり、大学を通じて許可申請を行わなければならないこと、アルバイト時間や職種の制限に関する具体的な注意などを日英中の３か国語で記載している事実、さらに口頭でも同様の説明を行っている点を報告し、入管当局の誤解を解くことができた。同年度後期、院生・研究生のオリエンテーション参加者は48人であった。

2007年度に入ると、オリエンテーション欠席者は資格外活動許可申請ができないことが留学生の間で周知され、特に私費留学生のほとんどを占める中国人の院生・研究生のオリエンテーション参加者が急増した。

ただし、オリエンテーション欠席者は資格外活動許可申請ができない制度を採用したため、欠席者に対する確実なケアが必要となり、欠席した新入生から要望があるたびに随時オリエンテーション資料を手渡し、後日その内容を理解できているかどうかの確認作業を行うこととした。前期は16組18人、後期は22組23人に対してこの確認作業を行い、オリエンテーションを受講したものとみなした。これらの者を含めて、同年度前期は90人、後期は73人の院生・研究生がオリエンテーションを受講したことになり、参加率は100％に近づいた。

しかし、オリエンテーション資料を手渡して説明し、確認作業を行う日時を調整し、後日実施するためには１組当たりの所用時間が最低でも30分を要し、極めて煩雑であった。このため、2008年度には随時確認作業を実施する方法を中止した。すなわち、４月に３回、10月に２回のオリエンテーションを実施し、５月、６月、７月、11月、12月、１月の各月１回のオリエンテーションを実施することに変更し、４月或いは10月のオリエンテーションに参加できなかった者に対しては翌月以降に追加オリエンテーションとして月１回まとめて実施することに変更した。

2.3　在籍身分別オリエンテーションの廃止とその一元化

2008年度には原則として在籍身分別のオリエンテーションは取りやめ、全ての留学生を対象として実施することに方針を転換した。ただし、EPOKプログラム担当教員の実施するオリエンテーションは従来どおり存続する。

在籍身分別にオリエンテーションを実施することのメリットは次の点にある。第１に、１種類の言語で説明できるため、時間が節約できる。例えば、日本語研修生の場合は英語のみ、学部１年生及び日韓予備教育学生の場合は日本語のみで説明できる。また、院生・研究生の場合も、同じ発想により当初は時間をずらして、日本語のみによる説明、英語のみによる説明とし、前者は主として中国人留学生、後者はそれ以外の留学生を対象として実施していた。第２に、在籍身分が同じ留学生のグループであれば、その在籍身分に特徴的な説明を追加し、説明することができる。例えば、日本語研修生の場合、留学生センター関連の詳細な情報提供を行うことができる

しかし、岡山大学に留学生センターが設置された1992年度から2003年度前期にかけての各期の日本語研修生の平均人数は15.8人であったが、2003年度後期から2006年度後期にかけては6.3人に、2007年度前期にはわずか１人となった[5]。本来は大使館推薦国費留学生のための日本語研修コースであるが、2005年度後期以降、コース維持を図る目的で私費留学生の登録が認められ、英語のできない中国人私費留学生が参加するようになった。従って、日本語研修コースのオリエンテーションを英語のみで実施することが不可能となった。このため、2007年度前期の日本語研修生に対しては臨時的に院生・研究生対象ののオリエンテーションへの出席を求めた。日韓予備教育学生に関しても、2000年度後期来日の第１期生から2006年度後期来日の第７期生にかけては、各期３人から６人が入学したが、第８期生、第９期生は各々わずか１人となり、日韓予備教育学生だけを対象としたオリエンテーションを実施することが効率的ではなくなり、2007年度後期来日の第８期生以降は院生・研究生対象のオリエンテーションへの出席を求めることにした。

ちなみに2008年度前期のオリエンテーションの実施結果は次のとおりである[6]。

第１回：４月15日 16:00、A108教室、日本語・英語使用、57人参加
第２回：４月18日 16:00、A108教室、日本語・英語使用、23人参加
第３回：４月23日 18:00、セミナー室１、日本語・英語使用、11人参加
第４回：５月14日 18:00、セミナー室１、日本語・英語使用、11人参加
第５回：６月11日 18:00、セミナー室１、日本語・英語使用、９人参加
第６回：７月９日 18:00、セミナー室１、日本語・英語使用、２人参加

合計113人が参加したが、新入生である院生・研究生の参加者は93人である。同年４月に研究生として入学した者は67人であり[7]、直接大学院正規生として入学した者がさほど多くないことから、参加率は100％に近いと推察される。

3．オリエンテーション内容の改善

3.1　1999年当時のオリエンテーションの内容

筆者の前任者が1999年４月12日に実施したオリエンテーションの内容は表１のとおりであり[8]、日本語研修生を対象として1時間程度で実施されていた。同年10月には着任前の筆者が当該業務を代行し、岡山県紹介のビデオ鑑賞及び緊急時貸付金に関する説明項目を除き[9]、ほぼ同様のスタイルで実施した。配布物はA４版のハンドアウト（２ページ）と留学生課発行の『岡山大学外国人留学生ガイドブック』（以下、本文中では『ガイドブック』と略称する。）であった。

日本語研修生は、主として大使館推薦国費研究留学生であり、半年間留学生センターに所属して日本語研修コース（大学院予備教育コース）で集中的に日本語を勉強する。後期は国費の教員研修留学生もこのコースに参加する。説明項目２）「あなたの身分」においては、大学院所属の「研究生」ではなく、留学生センター所属の「日本語研修生」であることを自覚させた。ちなみに、「研究生」と「日本語研修生」とでは、学内の身分のみならず、例えば、資格外活動許可基準も異なる。当時、４クラスで運営されていたためクラス分け結果の通知、ボランティア学生からの支援の受け方、進学先大学院の指導教員との連絡の取り方、留学生センター日本語教員全員の連絡先など、きめ細かな説明を行った。説明は、ハンドアウトに従って行い、必要に応じて『ガイドブック』を参照する方法を採用した。

表１　1999年度前期の生活オリエンテーション

(1)対象者	日本語研修生
(2)実施言語	英語
(3)実施回数	１回
(4)説明項目	
1)学内のアドバイザー	10)入管手続き
2)あなたの身分	11)麻薬
3)国民健康保険	12)電話・携帯電話
4)医療費補助制度	13)日本語研修コース
5)岡山大学生協	14)指導教員
6)保健管理センター	15)ボランティア・チューター
7)留学生会館	16)クラス分け
8)文部省奨学金	17)緊急時連絡先（学内／119番）
9)緊急時貸付金制度	18)「晴れの国」ビデオ鑑賞
(5)配付資料	
1）オリエンテーション資料：ハンドアウト（英語、A4版２ページ）	
2)『岡山大学外国人留学生ガイドブック』(1999-2000)日英２か国語	

注１）庄司惠雄氏作成のオリエンテーション資料（英語版）による。
注２）配付資料については、上記２点以外は不明である。

3.2　オリエンテーション内容の充実と改善

3.2.1　2000年度の取組み

2000年度はほぼ前年度のやり方を踏襲したが、同年度前期に留学生がセクハラ被害に遭う事件が発生したため、同年度後期のオリエンテーションの説明項目に「セクシュアル・ハラスメント」を追加し、日英2か国語で作成したハンドアウトを作成して配布した。

3.2.2　2001年度の取組み

留学生センターとして、全ての新入留学生に対するオリエンテーションを実施する必要性を痛感し、すでに述べたとおり、2001年度後期から院生・研究生を対象とするオリエンテーションを開始した。

オリエンテーションで配布する『ガイドブック』は日英2か国語のみで記載されているため、2001年度前期にはオリエンテーションで説明を要する部分の中国語訳を作成し、中国人留学生に配付できるように準備した[10]。院生・研究生を対象としたオリエンテーションでは、『ガイドブック』の記載事項に従って説明し、「セクシュアル・ハラスメント」などの補足すべき項目についてはハンドアウトを配布することにした。説明項目は表2のとおりである。

表2　2001年度後期　院生・研究生対象生活オリエンテーション

(1)対象者	院生、研究生、特別聴講生
(2)実施言語	日本語・英語
(3)実施回数	2回
(4)説明項目	
1)授業料・入学金免除（6②）	8)国民健康保険（8②）
2)奨学金（6③）	9)医療費補助制度（8③）
3)①外国人登録（7①）	10)学研災保険（8④）
4)在留期間の更新（7②）	11)学内での食事・買い物（9①）
5)一時出国及び入国（7③）	12)非常事態（10⑥）
6)資格外活動（7④）	13)貸間・アパート等（11②）
7)保健管理センター（8①）	14)セクシュアル・ハラスメント
(5)配付資料	
1)『岡山大学外国人留学生ガイドブック』(2001-2002)日英2か国語	
2) 同上（抜粋)、中国語訳	
3)「健康診断のお知らせ」保健管理センター、日英2か国語	
4)「留学生相談・指導担当者一覧」地図付き、日英2か国語	
5)「セクシュアル・ハラスメント」日英中3か国語	

注）説明項目末尾の（　）内の数字は『岡山大学外国人留学生ガイドブック』(2001-2002)の章・項目に対応する。

3.2.3　2002年度の取組み

2002年度前期・後期のオリエンテーションにおいては、『ガイドブック』の説明項目中

の「国民健康保険」、「医療費補助制度」、「生協」の 3 項目及び追加項目として「ごみの出し方」の合計 4 項目について、日英中の 3 か国で補足説明資料を作成し、配布した[11]。

3.2.4　2003年度の取組み

2003年度後期には、学外の団体・機関による無料相談情報を配布資料に加えることとした。これらは、①行政書士による「外国人のための入国在留無料相談」、②宅建協会による「住宅トラブルの無料相談」、③岡山労働局による「外国人労働者相談コーナー」、④岡山弁護士会による「外国人のための無料法律相談」である。いずれも専門家による適切なアドバイスを得ることができ、これらの無料相談サービスを利用して留学生のトラブルを解決できたケースも存在する。

2003年度には、岡山大学近辺の悪質な歯科医師によるトラブルが続発したため、同年後期には「悪質な歯科医」という項目を追加し、オリエンテーションで注意を喚起した。また、中国人留学生がアルバイト賃金を支払ってもらえないケースが複数件発生し、その一部については上述の岡山労働局の「相談コーナー」を利用して問題を解決することができた（岡，2004b：67)。アルバイト賃金不払いに対処するため、「中国人留学生のみなさん：アルバイトについて」という追加資料を日中 2 か国語で作成し、配布することにした。

2004年度のオリエンテーションは前年度に準じて実施した。

3.2.5　2005年度の取組み

2005年度に入って、複数の留学生から自国の運転免許証を日本の運転免許証に変更したいとの相談があった。また、任意保険に加入しないまま、バイクを運転して交通事故に巻き込まれたケースも発生したため、同年度後期には運転免許証の取得と任意保険加入に関する説明項目を追加した。

事務担当者の手違いで2005年度版の『ガイドブック』の発行が 4 月のオリエンテーション実施日に間に合わない事態が発生した。この出来事を教訓にして、後期からは筆者が日英中の 3 か国語で作成したハンドアウト「新入生のための生活オリエンテーション」（当時 9 ページ）を主たるオリエンテーション資料とし、『ガイドブック』は補助資料として利用することに変更した。

2003年度に中国人留学生のために作成したアルバイト賃金不払いにかかわるハンドアウトの内容は、新資料「新入生のための生活オリエンテーション」の資格外活動項目の末尾に加筆した。

また、2005年度後期以降、EPOK担当教員によるEPOK学生のオリエンテーションにおいても筆者の作成したハンドアウト「新入生のための生活オリエンテーション」を使用して当該学生対象のオリエンテーションを実施することにし、現在に至っている。

3.2.6　2006年度の取組み

留学生が学内のパソコンでP2P通話ソフトを使用するケースが目につくようになり、学生支援課留学生支援担当から学内でのP2Pソフトの使用を禁止することを留学生に周知し

てほしいとの要請があり、「Ｐ２Ｐ」を2006年度前期のオリエンテーション項目に追加した。

2006年度前期に、粗大ごみとしてごみ捨て場に捨てられていた中古自転車や友人から譲り受けた中古自転車に乗っていて、路上で警察官に職務質問を受けるケースが多発した。筆者が交番へ出向いて当該留学生の身柄を引き取ったケースもあった。これらの留学生は「占有離脱物横領罪」に問われることになるので、岡山西警察署から留学生が安易に中古自転車を拾得して乗らないように注意を促してほしいとの要望が寄せられた。こうした状況に対処するために、同年度後期には「持ち主不明の自転車」に対する注意をオリエンテーション説明項目に追加した。

2006年度には岡山大学独自の制度として、私費留学生に対する国民健康保険料補助制度が創設され、前期末と後期末に１人当たり9,000円の補助金が支給されることになった。このため、同年度前期のオリエンテーションでは口頭で追加説明を行い、後期のオリエンテーション資料には国民健康保険の項目の末尾に当該説明を追加掲載した。

また、2006年度から日本学生支援機構（JASSO）による医療費補助制度が変更され、補助比率が前年度までの80％から35％に引き下げられたことに伴い、当該項目の一部修正を行った。

3.2.7　2007年度の取組み

留学生の住居確保が困難であるという現状を踏まえて、2007年７月に岡山大学生協から生協取扱いの民間賃貸住宅に関して生協専務理事が連帯保証人となるアパート入居保証人制度の立ち上げを検討したいとの申し出があり、国際課を交えて協議した結果、2007年10月には同制度の創設にこぎつけることができたため、同年度後期のオリエンテーション項目に同制度に関する説明を急遽追加記載した。

3.2.8　2008年度の取組み

2008年初頭から同年夏にかけて複数の留学生が振込め詐欺の被害に遭った。ほとんどの場合は未遂に終ったが、１人は実害があった。このため、2008年度前期のオリエンテーションでは口頭で注意を促し、同年度後期の資料には追加説明項目として記載した。

また、留学生の間に携帯電話が普及してきたことで顕在化した問題もある。岡山大学の電話交換機が旧式であることが原因で、大学の内線電話から携帯電話にかけた場合、どの内線番号からかけても携帯電話の画面には086-251-7999または8999と表示される。このため、どこの部署の誰から電話があったのか分からず、留学生の間に混乱が生じている。2007年度後期以降、口頭と板書で注意を促してきたが、2008年度後期には配布資料に追加項目として記載した。

逆に、総合情報基盤センターの許可を得ればＰ２Ｐソフトの使用が認められることになったため、2008年度後期の説明項目からこの部分を削除した[(12)]。

なお、日本語研修生に対するオリエンテーションは、2006年度後期までは従来どおり、別途実施した。説明項目は表１の内容に適宜表２、表３の内容を加えた。しかし、すでに

述べたとおり、日本語研修生の減少を受けて、2007年度前期に実施を見送った後、2008年度には日本語研修生対象のオリエンテーションを廃止し、院生・研究生対象のオリエンテーションに参加させる方針に転換した。

説明の際の主たる資料として用いているハンドアウト「新入生のための生活オリエンテーション」は、作成当初9ページであったものが現在では正味13ページとなっている。その内容については、表3を参照願いたい。

表3　2008年度後期の生活オリエンテーション

(1)対象者　新入留学生

(2)実施言語　日本語・英語・(中国語)

(3)実施回数　5回（10月2回、追加11月～1月各1回）

(4)説明項目

1)病気・ケガ（保健管理センター／健康診断／平日の夜間と休日／＊悪質な歯科医）
2)国民健康保険（保険料の減額申請／＊岡大独自の保険料補助制度）
3)医療費補助制度
4)学研災
5)安全な生活（急病・火事・地震）
6)住まい（民間アパート等の賃貸契約／＊生協による住宅斡旋）
7)出入国関連
8)奨学金
9)資格外活動
10)＊ハラスメント
11)麻薬
12)＊運転免許証
13)＊中古自転車
14)大学生協
15)＊ごみの出し方
16)＊電話番号（岡大の内線電話から留学生の携帯電話へかけた場合）
17)＊振り込め詐欺
18)＊学外の留学生無料相談（行政書士協会・宅建協会・岡山労働局・岡山弁護士会）

(5)配付資料

1)「新入生のための生活オリエンテーション」留学生相談室、日英中3か国語
2)『岡山大学外国人留学生ガイドブック』国際課、日英2か国語
3)「健康診断のお知らせ」保健管理センター、日英2か国語
4)「緊急のための多言語ガイド」岡山市消防局、英中韓タガログ語の4か国語
5)『岡山大学留学生のためのキャンパス用例集』用例集編集委員会、日英中3か国語
6)「ごみの出し方」岡山市、英中韓3か国語
7)「近辺マップ」留学生支援ボランティア・WAWA、英語
8)「各種パンフレット紹介ハンドアウト」留学生相談室、日英2か国語

注1）配布資料1)に記載のない部分の口頭説明は、日英中の3か国語で実施
注2）説明項目欄の＊印は2001年度以降に追加した内容

4．オリエンテーション実施要領

4.1　準備作業から事後処理まで

2007年度には留学生相談室へ非常勤相談員の配置が認められ、かつ、経済学部留学生専門教育教員の留学生相談室兼担が実現したことにより３人体制となった。オリエンテーションに関しても原則として３人で協力して実施する運びとなった。

準備作業として、新学期１か月前に４月または10月に実施するオリエンテーション案内を日英中の３か国語で作成し、国際課を通じて各部局へメールに添付して配信するとともに、国際課や留学生会館に同案内を掲示する。５月以降或いは11月以降の追加オリエンテーション案内に関しては、新学期に入って第１回目のオリエンテーションが終了した時点で同じ方法で留学生に周知を図る。

ハンドアウト「新入生のための生活オリエンテーション」の記載項目の追加、削除、訂正を行い、当該学期用に100部印刷する。「健康診断のお知らせ」等のハンドアウトについても100部印刷する。出席票を準備する。

各学期第１回目のオリエンテーションでの説明は筆者が担当するが、第２回目以降は非常勤相談員と兼担教員も分担して実施する。会場準備は３人で行う。

オリエンテーション終了後、出席票をコピーして国際課の職員に渡す。資格外活動許可申請を認めるかどうかの判断材料として利用されるためである。

4.2　注意を要する説明内容

項目１)病気・ケガに関して、悪質な歯科医の説明には神経を使っている。岡山大学の近くで開業している某歯科医は極めて悪質であり、数年前まで留学生のみならず日本人学生から「虫歯の治療に行ったところ、健康な歯を抜かれた。」といった被害の訴えが後を絶たず、警察ざたになったケースも発生した。当該歯科医師は違法診療や不正請求の罪で1998年７月から２年間保険医登録取り消し処分を受けたのに加え[13]、被害を受けた患者を逆に訴えて2005年12月に虚偽告訴罪で懲役10か月の有罪判決を受けた[14]。

当該歯科医院に関する情報を配布資料に記載すると岡山大学が営業妨害で訴えられる可能性があると判断し、オリエンテーションの際に板書し、かつ口頭で注意を喚起するように止めている。ただし、極めて重大な情報であるため、口頭での注意は日英中の３か国語で行っている。

これとは別に、岡山大学近辺にはやや問題のある歯科医院も存在するため、同様の方法で注意を促し、先ず保健管理センターへ行き、良い歯科医院を紹介してもらうことを勧めている。

4.3　状況の変化に応じた説明内容

オリエンテーションにおける説明内容は、その時々の必要性に応じて適宜変更している。例えば、ハラスメントに関しては、当初は学生同士のセクハラ事件が目についたため、セクハラ対策に重点を置いた説明をしていたが、近年は指導教員によるアカハラ、パワハラ

事件が頻発しており、指導教員とのトラブルがあった場合の対応についても言及している。

資格外活動許可に関しても、岡山大学大学院入学前に他大学或いは日本語学校等で取得した資格外活動許可のままでアルバイトに従事するケースが散見されることから、2008年度後期にはオリエンテーション資料の記述を「法務大臣の許可が必要」という従来の表現から「岡山大学及び法務大臣の双方の許可が必要」に改めた。

休学中にアルバイトをするケースも見られ、現在口頭で休学中のアルバイトは許可されない旨の注意を与えているが、2009年度のオリエンテーション資料の資格外活動項目欄に「休学中のアルバイトは禁止」という文言を追加記載し、徹底したいと考えている[15]。

また、2008年度末で日本学生支援機構による留学生のための医療費補助制度が廃止されるため、2009年度のオリエンテーション資料から当該説明項目を削除する必要がある。さらに、2008年度内に大学の電話交換機が新式のものに取り替えられる予定であり、2009年４月までに大学の内線電話から携帯電話にかけた電話番号の下４桁が7999或いは8999と誤表示されることはなくなるため、当該項目をオリエンテーション資料から削除しなければならない。

５．結び

センターの留学生相談指導担当教員が企画実施するオリエンテーションの実施方法と内容をまとめると次のとおりである。1992年の留学生センター設置以来、日本語研修生を対象とするオリエンテーションのみが実施されていたが、2001年度後期に全学の新入留学生を対象とするオリエンテーションを立ち上げた。2006年度後期にオリエンテーション不参加者には資格外活動許可申請を認めない方針を採用し、参加率を飛躍的に向上させた。2008年度には在籍身分別のオリエンテーションを廃止し、全留学生を対象としたものを前後期各々５回程度実施することに改めた。オリエンテーションの実施方法や実施内容に関しては、固定的であってはならず、毎学期見直しを行い、留学生にとって最善の内容とすることを心がけている。

また、今後の課題として、次の点を検討する必要があろう。現在、配布資料と口頭説明のみでオリエンテーションを実施しているが、パワーポイントを利用し視覚に訴える工夫をすること、さらに、歯科治療被害・交通事故・麻薬所持・資格外活動違反・セクハラ・アカハラなど、過去に発生した代表的な事例をきちんと当該項目の説明に組み込み、インパクトのあるオリエンテーションに改善しなければならないと考える。

注

(1) 前任者が同年９月30日付けで転出し、筆者は学内他部局からの異動であったため、当時のセンター長命により、10月１日からセンター業務を兼任し、10月来日の日本語研修生の生活オリエンテーション

を実施した。しかし、同年度末まで異動元部局との併任を命じられため、センター業務に専念できるようになったのは2000年４月である。

(2) 岡山大学における全学的な留学生教育・支援業務を所管する部署は次のとおりである。

事務組織：1992年度～2003年度　　学務部留学生課
　　2004年度～2006年度　　学務部学生支援課留学生支援担当（主査）
　　2007年度～現在に至る　学務部国際課
教員組織：1992年度～2006年度　　留学生センター
　　2007年度～現在に至る　国際センター

上述の期間に応じて本文中では所管部署の名称を使い分けることをお断りしておく。

(3) 短期留学推進制度の岡山大学版であるEPOK（Exchange Program Okayama）は1998年10月に仮発足したが（中村，2003：61)、翌1999年秋に同プログラム担当教員２名が採用されたことに伴い、本格的に始動した。以下、EPOK制度に基づいて受入れる交換留学生をEPOK学生と略称する。

(4) 各年度のオリエンテーション開催に関するデータは、岡（2003，2004a，2005）及び筆者の相談記録ノートによる。未公刊の内部資料に関しては、参考文献欄への記載を省略する。なお、「院生・研究生」にはEPOK学生を除く特別聴講生を含み、2002年度以降の前期は学部正規生を含む。

(5) 日本語研修生受入れ数が2003年度後期以降減少した原因は、その直前に中四国地区の国立大学に相次いで留学生センターが設置され、岡山大学留学生センターが拠点センターとしての機能を失ったことにある。2007年度に激減した理由は、廣田・岡（2008）p.145に示したとおり、文科省が大使館推薦国費留学生の配置方針を転換したためである。日韓予備教育学生の受入れ数減少についても、廣田・岡（2008）p.145を参照願いたい。

(6) 新入EPOK学生のオリエンテーションは従来どおりEPOK担当教員が実施する計画であったが、前期入学者がゼロであったため実施されなかった。

(7) 国際課作成の新入研究生のリストによる。

(8) 当該オリエンテーション資料は、1999年９月に前任者から引き継ぎ書類の１つとして受け取った。

(9) 貸付金担当の留学生課専門員（当時）から、運用資金に限りがあるため、オリエンテーションでの説明は割愛し、個別に相談があった場合にのみ同制度を紹介するようにしてほしいとの要請があり、同項目をハンドアウトから削除した。以後、日本語研修生対象のオリエンエーションでは、同制度の存在について口頭で軽く触れる程度に止めた。

(10) 『ガイドブック』の第６章「授業料等・奨学金について」から第11章「宿舎について」までを翻訳し、ネイティブ・チェックを受けたうえで配布した。

(11) 「ごみの出し方」を追加項目に入れたのは、留学生会館近隣の住民から留学生のごみの出し方が悪いという苦情が寄せられたためである。

(12) 2008年度前期の資料「新入生のための生活オリエンテーション」から削除すべきであったが、タイムリーに対応できなかった。

(13) 1998年７月３日付『朝日新聞』、1998年８月25日付『山陽新聞』。

(14) 2005年３月11日付『山陽新聞』、2005年12月１日付『毎日新聞』。

(15) 国際課留学生支援係長の要望により、2008年度後期オリエンテーションではこの件に関して口頭で注意を促した。

参考文献

廣田陽子・岡益巳（2008）「地域社会における留学生交流支援のあり方－留学生支援ネットワーク・ピーチの交流支援活動を事例として－」『留学生交流・指導研究』Vol.10、pp.135-147.

「保険医登録を県、取り消し　歯科医の不正請求で」1998年７月３日付『朝日新聞』

「健康な前歯４本切断された　歯科医に賠償求め提訴」1998年８月25日付『山陽新聞』

「虚偽告訴で歯科医逮捕」2005年３月11日付『山陽新聞』

「虚偽告訴罪で実刑判決」2005年12月１日付『毎日新聞』

中村和泉（2003）「岡山大学短期留学特別プログラムEPOK－「英語による授業」改善への取組みと課題－」『岡山大学留学生センター紀要』第10号、pp.61-77.

岡益巳（2003）「留学生相談室・年次レポート(2001年10月～2002年９月)」『岡山大学留学生センター紀要』第10号、pp.45-60.

岡益巳（2004ａ）「留学生相談室・年次レポート(2002年10月～2003年９月)」『岡山大学留学生センター紀要』第11号、pp.79-96.

岡益巳（2004ｂ）「留学生の資格外活動をめぐる諸問題－留学生相談指導の現場から－」『広島大学留学生センター紀要』第14号、pp.65-78.

岡益巳（2005）「留学生相談室・年次レポート（2003年10月～2004年９月）」『岡山大学留学生センター紀要』第11号、pp.79-96.

岡益巳（2006）「2005年度の留学生相談室の現状と問題」『大学教育研究紀要』第２号、pp.1-16.

岡益巳・中島美奈子（2007）『2006年度留学生相談室活動報告書－学内外の留学生支援リソースを活用した支援体制の構築を目指して－』岡山大学国際センター留学生相談室

岡益巳・中島美奈子・廣田陽子（2008）『2007年度留学生相談室活動報告書』岡山大学国際センター留学生相談室